

調布市における生涯学習の振興に向けた基本的な考えについて

(答 申)

令和5年2月

調布市生涯学習推進協議会

目 次

1	答申の位置付けと生涯学習の振興に向けた基本的な考え	1
2	基本的な考えを踏まえた4つの取組テーマ	2
(1)	テーマ1 “人生100年時代”を見据えた誰もが生涯学習に取り組むことができるまちづくり	3
(2)	テーマ2 生涯学習に取り組む市民からの相談への対応や情報共有の充実	4
(3)	テーマ3 産学官による多様な主体と連携した学びの場の充実	5
(4)	テーマ4 学びの成果を生かすことができる環境の充実	6

■ 参考資料

(1)	調布市生涯学習推進協議会（第13期）	
	ア 委員名簿	7
	イ 取組経過	7
	ウ 生涯学習に関する調査結果	8
(2)	諮問書（写）	11
(3)	調布市生涯学習推進協議会の答申・提言経過	12

1 答申の位置付けと生涯学習の振興に向けた基本的な考え

「第13期調布市生涯学習推進協議会（以下、「協議会」と表記する。）」は、令和4年12月13日付けで、調布市長から「調布市における生涯学習の振興に向けた基本方針」について諮問された。

調布市は、平成9年に生涯学習都市づくりを目指した「調布市生涯学習推進計画」を策定した後、平成15年に「調布市文化・生涯学習によるまちづくり推進計画」、平成25年に「調布市生涯学習振興プラン」を策定し、生涯学習の振興に取り組んできた。

他方、国は、“人生100年時代”を見据え、100年という長い期間をより充実したものにするために、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学びに至るまで、生涯にわたる学習が重要であるとしている。

また、文部科学省が設置する教育の振興及び生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に関する重要事項を調査審議する「中央教育審議会」においては、生涯学習の役割について、一人一人がより豊かな人生を送ることができるよう、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本とし、生涯を通じて行うものであり、個人の人生を支え、自己実現を図るうえで重要なものであると示されている。

こうした国の動向や、生涯学習を取り巻く社会潮流などを踏まえ、協議会においては、調布市が取り組む次期「調布市基本計画」の策定と連動し、今後の調布市における生涯学習の振興に向けた基本的な考えについて、答申としてとりまとめた。

答申に当たっては、生涯学習を取り巻く地域課題の整理に向け、市が実施した生涯学習に取り組む各種市民団体等へのアンケート調査に加え、市内で活動する生涯学習サークルや調布市中心身障害児・者親の会、調布市国際交流協会など、様々な活動団体からのヒアリングを踏まえ、今後の調布市における生涯学習の振興に向けた目指すべき方向について、委員それぞれの専門性を生かしながら議論を重ねてきた。

今後、調布市においては、協議会からの答申を踏まえ、様々な特色を有する相互友好協力協定を締結する大学や、包括協定を締結する事業者のほか、「ちょうふ市民カレッジ」をはじめとする各種生涯学習の機会を提供する調布市文化・コミュニティ振興財団など、市の強みである多様な主体との連携の下、幅広い年代の方が、障害のある方や外国にルーツのある方などを含め、一人一人の興味や関心、生活スタイルに応じて、それぞれの可能性が最大限に引き出され、学ぶことができる環境づくりに努めるとともに、その成果をまちづくりに生かせるよう取り組むことを期待する。

調布市生涯学習推進協議会

2 基本的な考えを踏まえた4つの取組テーマ

テーマ1	<p>“人生100年時代”を見据えた誰もが生涯学習に取り組むことができるまちづくり</p> <hr/> <p>■ 基本方針 “人生100年時代”を見据え、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、誰もが、生涯を通じた学びに取り組むことができ、その学びを深めていくことができるよう、多様な主体と連携し、学びの機会や場の充実に取り組む。</p>
テーマ2	<p>生涯学習に取り組む市民からの相談への対応や情報共有の充実</p> <hr/> <p>■ 基本方針 生涯学習に取り組む市民団体等の活動における各種相談への対応や、各種媒体の活用に加え、アウトリーチによる情報発信など、創意工夫を重ねながら、より広く市民への周知を図ることができるよう、情報共有の充実に取り組む。</p>
テーマ3	<p>産学官による多様な主体と連携した学びの場の充実</p> <hr/> <p>■ 基本方針 生涯学習の活動拠点の一つである文化会館たづくりの運営を担う調布市文化・コミュニティ振興財団や、特色を生かした市民向け公開講座等を開催する相互友好協力協定締結大学をはじめ、多様な主体と連携した学びの機会や場の充実に取り組む。</p>
テーマ4	<p>学びの成果を生かすことができる環境の充実</p> <hr/> <p>■ 基本方針 市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍することができるよう、学習の成果をまちづくりに生かすことができる機会や場の充実に向けて取り組む。</p>

(1) **テーマ1** “人生100年時代”を見据えた誰もが生涯学習に取り組むことができるまちづくり

【基本方針】

“人生100年時代”を見据え、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、誰もが、生涯を通じた学びに取り組むことができ、その学びを深めていくことができるよう、多様な主体と連携し、学びの機会や場の充実に取り組む。

■ 現状と背景

市民一人一人が、それぞれの興味、関心、生活スタイルに応じて学習し、その成果をまちづくりに生かすことのできるよう、“人生100年時代”を見据え、幅広い年代に向けて、多様な分野における学びのきっかけづくりや、生涯を通じて学びを継続することができるまちづくりを進めることが望まれる。

とりわけ、学習活動に一定の制約を受ける障害のある方や外国にルーツのある方などを含め、誰もが主体的に活動できる機会を得られるよう、一人一人の多様なニーズに柔軟に対応できる支援の充実に向けて、それぞれの当事者からの意見を的確に捉えながら検討することが重要であり、多様性を尊重するとともに、それぞれの個性や学びの成果や、それぞれが持つネットワーク等を生かし、学びの機会や場の充実に向けたきっかけづくり・活動支援に取り組む必要がある。

この間、市は、市民団体である地域デビュー推進委員会と協働し、主にシニア層の市民が地域で活動するきっかけづくりとともに、市民の学びの成果を生かした各種事業を実施しており、こうした実績を踏まえ、より幅広い年代の市民が生涯学習に取り組むことができる仕組みづくりを進めることを期待する。

【主な取組事例】

- ・生涯学習出前講座、生涯学習情報コーナー、パラアート展、ピースメッセンジャー、まち活フェスタ、映画のまち調布シネマフェスティバル関連ワークショップ、障害者スポーツ体験会、男女共同参画推進フォーラム、観光ボランティア、マルシェ ドゥ 調布、普通救命講習会（調布市）
- ・地域デビューイベント（調布市、調布市地域デビュー推進委員会）
- ・調布市民体育祭（調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会）
- ・調布市民駅伝競走大会（調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会、調布市商工会）
- ・ちょうふ市民カレッジ（調布市文化・コミュニティ振興財団）
- ・大学の公開講座（電気通信大学、明治大学、桐朋学園、白百合女子大学、東京外国語大学、慈恵大学）
- ・あおぞらサッカースクール（調布市、FC東京）
- ・生涯学習講演会、文化講座（調布市文化協会）
- ・ほりでーふらん（調布市福祉作業所等連絡会）
- ・遊ing（ゆーいんぐ）、杉の木青年教室、ブックスタート（調布市教育委員会）
- ・日本語教室、国際理解講座、ボランティア入門講座、バスツアー（調布市国際交流協会）
- ・ボランティア・NPO活動の相談・支援（社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動支援センター）
など

(2) **テーマ2** 生涯学習に取り組む市民からの相談への対応や情報共有の充実

【基本方針】

生涯学習に取り組む市民団体等の活動における各種相談への対応や、各種媒体の活用に加え、アウトリーチによる情報発信など、創意工夫を重ねながら、より広く市民への周知を図ることができるよう、情報共有の充実に取り組む。

■ 現状と背景

生涯学習に関する相談への的確な対応や、情報を必要とする方が、適切に情報を得ることができ、生涯を通じた学びを継続することができるとともに、生涯学習を始めるきっかけを得られずにいる方のほか、関心を持っていない方に対しても、積極的なアプローチを図り、多様な学びにつながるよう生涯学習に関する情報の効果的な発信に取り組む必要がある。

市は、調布市文化会館たづくりにおける生涯学習情報コーナーで、専門の生涯学習まちづくり推進員による生涯学習に関する相談や情報提供、生涯学習サークル等の活動支援に取り組んでいる。

今後も、窓口における各種対応のほか、市報・市ホームページ・SNS・生涯学習情報コーナーのホームページ、ちょうふ地域コミュニティサイト「ちょみっと」に加え、調布FM放送等、様々な媒体を活用するとともに、デジタル技術を活用した生涯学習に関する情報のアクセシビリティ向上に向けた工夫を講じながら、効果的な情報発信体制についても検討を進める必要がある。

また、生涯学習への関心を高めるために、出前講座の活用促進に努めるほか、地域での各種イベントや団体・企業等との連携を図り、生涯学習情報コーナー機能のアウトリーチに取り組むなど、より多くの市民が情報を得ることができ、生涯学習に取り組むきっかけや、学びの充実につながることを期待する。

【主な取組事例】

- ・生涯学習出前講座、生涯学習情報コーナー、ちょうふ地域コミュニティサイト「ちょみっと」、サークルガイドブック、人材情報ガイドブック、女性・男性のための各種相談（調布市）
- ・地域デビューイベント（調布市、調布市地域デビュー推進委員会）
- ・市民活動団体リスト、ボランティア・NPO活動の相談・支援（社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動支援センター） など

(3) **テーマ3** 産学官による多様な主体と連携した学びの場の充実

【基本方針】

生涯学習の活動拠点の一つである文化会館たづくりの運営を担う調布市文化・コミュニティ振興財団や、特色を生かした市民向け公開講座等を開催する相互友好協力協定締結大学をはじめ、多様な主体と連携した学びの機会や場の充実に取り組む。

■ 現状と背景

市は、多様な特色を持つ大学と相互友好協力協定を締結し、文化、教育、学術、スポーツなどの様々な分野で連携を図っており、今後も、生涯学習に取り組むきっかけづくりにもつながるよう連携を深めていく必要がある。

また、生涯学習の活動拠点でもある文化会館たづくりの施設運営を担う調布市文化・コミュニティ振興財団は、「ちょうふ市民カレッジ」をはじめとする生涯学習の機会を提供している。

さらに、外国人を対象とした日本語教室のほか、国際理解講座、ボランティア入門講座等を開催している調布市国際交流協会や、NPOやボランティア活動などの市民活動を総合的に支援する拠点である市民活動支援センターに加え、中・高校生世代を対象とした各種講座のほか、自主活動やサークル活動の支援、ボランティアの育成・活動支援に取り組む青少年ステーションCAPSなど、多様な関係団体を含めとする、産学官による効果的な連携を図ることで、更なる生涯学習の振興につながることを期待される。

併せて、生涯学習に関連する団体・サークルの自主的な活動を継続していくことができるよう支援に努めるとともに、様々な学習施設との連携により、市民が活動を行うことができる機会の充実に取り組むことが重要である。

今後も、調布市基本構想に位置付けられた、まちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、地域の特性を適切に捉え、まちの“強み”である地域資源を生かしながら取り組むことを期待する。

【主な取組事例】

- ・生涯学習出前講座、パラアート展、生涯学習サークル体験会（調布市）
- ・地域デビューイベント（調布市、調布市地域デビュー推進委員会）
- ・ちょうふ市民カレッジ（調布市文化・コミュニティ振興財団）
- ・大学の公開講座（電気通信大学、明治大学、桐朋学園、白百合女子大学、東京外国語大学、慈恵大学）
- ・日本語教室、ボランティア入門講座、各種交流事業（調布市国際交流協会）
- ・調布サマーボランティア、えんがわカフェ（社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動支援センター）
- ・あおぞらサッカースクール（FC東京、調布市）
- ・生涯学習講演会、文化講座（調布市文化協会）
- ・「春の公演」に関連した各種ワークショップ（劇団芸優座）
- ・ほりで一ぷらん（調布市福祉作業所等連絡会）
- ・ひだまりサロン（調布市社会福祉協議会）
- ・遊ing（ゆーいんぐ）、杉の木青年教室、ブックスタート（調布市教育委員会）
- ・シニアのためのスマートフォン講習、相談会（公民館） など

(4) **テーマ4** 学びの成果を生かすことができる環境の充実

【基本方針】

市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍することができるよう、学習の成果をまちづくりに生かすことができる機会や場の充実に向けて取り組む。

■ 現状と背景

“人生100年時代”を見据えた幅広い年代に向けて、多様な分野における学びのきっかけづくりや、市民一人一人が、それぞれの興味・関心や生活スタイルに応じて学習し、その成果をまちづくりに生かすことのできるよう生涯を通じた学びを支援する必要がある。

市民一人一人が、活動を通じたそれぞれの学習成果を発表する機会の提供や、活動団体をはじめとする地域に根差した学習グループを対象とした事業の開催など、学習の成果をまちづくりに生かすことができる機会の充実に努めるよう期待する。

【主な取組事例】

- ・生涯学習情報コーナー、パラアート展、ピースメッセンジャー、調布国際音楽祭、映画のまち調布シネマフェスティバル関連イベント、まち活フェスタ、障害者スポーツ体験会、男女共同参画推進フォーラム、観光ボランティア、マルシェ ドゥ 調布（調布市）
- ・調布市民文化祭、地域文化祭（調布市文化協会、調布市）
- ・地域デビューイベント（調布市、調布市地域デビュー推進委員会）
- ・総合防災訓練・水防訓練（調布市）
- ・調布市民体育祭（調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会）
- ・調布市民駅伝競走大会（調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会、調布市商工会）
- ・ほりで一ぷらん（調布市福祉作業所等連絡会）
- ・やさしい日本語の推進（調布市、調布市国際交流協会）
- ・日本語で話そう会、各種交流事業（調布市国際交流協会）
- ・調布サマーボランティア、えんがわカフェ（社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動支援センター）
など

■ 参考資料

(1) 第13期調布市生涯学習推進協議会

ア 委員名簿（任期：令和4年12月13日から令和6年11月30日まで）

No.	氏名	所属等	備考
1	榎本 和江	調布市文化協会 副会長兼事務局長	
2	奥野 剛史	国立大学法人電気通信大学 社会連携センター長	副会長
3	岸本 勲	公募市民	
4	榊 美佐	公益財団法人調布市文化・コミュニティ 振興財団 事務局長	
5	島田 早苗	調布市国際交流協会	
6	菅原 育子	東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員	会長
7	高木 直	社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター センター長	
8	平澤 和哉	NPO法人ちょうふこどもネット 理事長	
9	藤田 豊	公募市民	
10	矢幡 秀治	公益社団法人調布市体育協会 常任理事 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団評議員 調布市社会教育委員	

（敬称略・50音順）

イ 取組経過

- (ア) 令和4年11月29日（火）調布市社会教育委員の会議で取組を共有
- (イ) 令和4年12月13日（火）第1回調布市生涯学習推進協議会
- (ロ) 令和4年12月20日（火）アンケート調査
- (ハ) 令和4年12月22日（木）ヒアリング調査
- (ニ) 令和4年12月28日（水）ヒアリング調査
- (ホ) 令和5年 1月16日（月）ヒアリング調査
- (ヘ) 令和5年 1月17日（火）第2回調布市生涯学習推進協議会
- (ニ) 令和5年 2月15日（水）第3回調布市生涯学習推進協議会

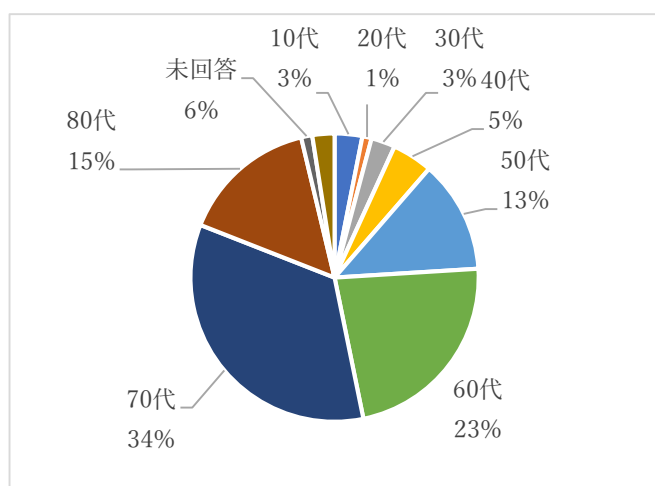
ウ 生涯学習に関する調査結果

■ アンケート調査概要

回答期間		令和4年12月20日(火) ~ 令和5年1月18日(水)
配布先一覧	市	調布市ホームページ、調布市公式LINE
	公共施設	市役所、文化会館たづくり、グリーンホール、みんなの広場、公民館、地域福祉センター、市民活動支援センター、総合体育館等
	関係団体等	調布市国際交流協会、ちょうふ子どもネット、文化協会、市内大学スポーツ推進委員等
	市民活動団体	調布わいわいサロン、調布市地域デビュー推進委員会等
	その他	調布市人材情報登録者、スポーツ推進委員等
回答		ウェブ；139件 持参・FAX等；344件 合計；483件

問1-1 あなた(回答者)についてお尋ねします。(年齢)

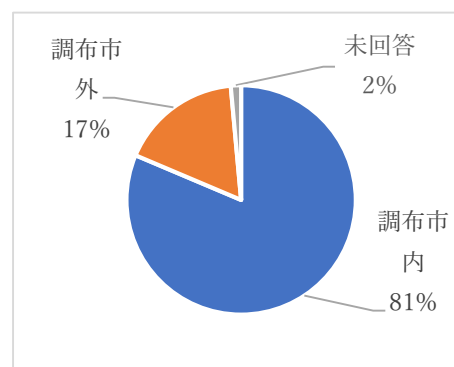
年代	計(単位:人)
10代	15
20代	5
30代	13
40代	22
50代	61
60代	110
70代	165
80代	74
90代	6
未回答	12
合計	483



60代以上のシニア世代が73%を占めているが、10代~50代の現役世代の回答も24%あった。

問1-2 あなたのお住まいの地域

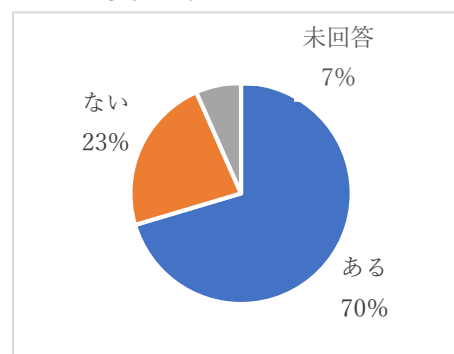
	計(単位:人)
市内	393
市外	83
未回答	7
合計	483



市内在住の回答者の割合が8割を占めている。

問2 あなたは、過去1年間において、生涯学習をしたことはありますか。

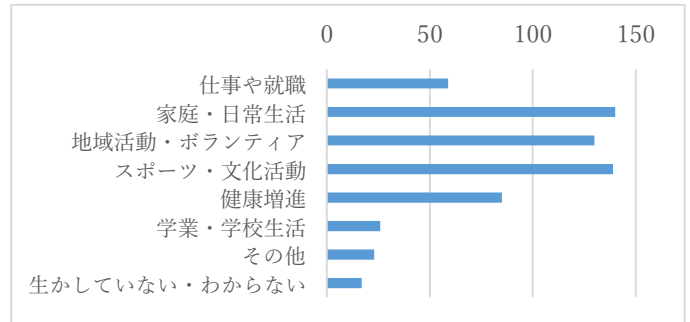
	計(単位:人)
ある	340
ない	111
未回答	32
合計	483



「ある」と回答した方が7割を占めている。

問2-1 「ある」と回答した方へ、生涯学習で学んだことをどのようなことに生かしていますか。
(複数回答可)

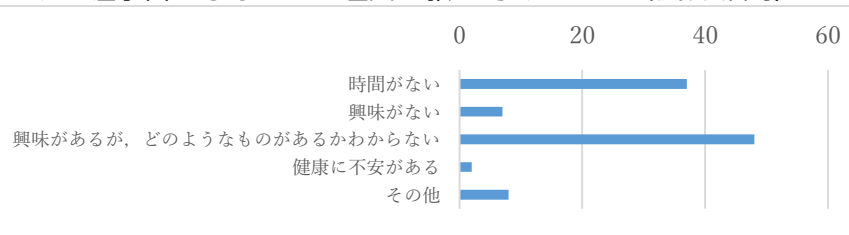
	計(単位:人)
仕事や就職	59
家庭・日常生活	140
地域活動・ボランティア	130
スポーツ・文化活動	139
健康増進	85
学業・学校生活	26
その他	23
生かしていない・わからない	17



「わからない」と答えた方は比較的少なく、「家庭・日常生活」が最も多く、次いで「スポーツ・文化活動」が多い。

問2-2 問2で「ない」と回答した方へ、生涯学習をしなかった理由を教えてください。(複数回答可)

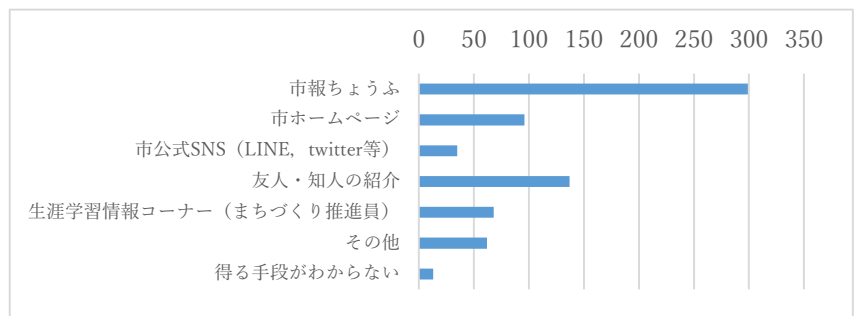
	計(単位:人)
時間がない	37
興味がない	7
興味があるが、どのようなものがあるかわからない	48
健康に不安がある	2
その他	8



「どのようなものがあるかわからない」という回答が最も多い。

問3 生涯学習に関する情報を何から入手していますか。(複数回答可)

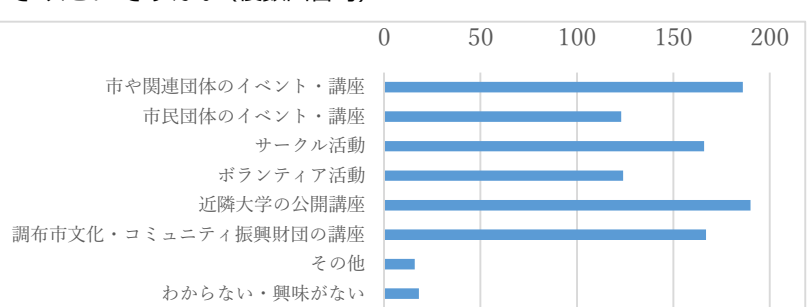
	計(単位:人)
市報ちょうふ	299
市ホームページ	96
市公式SNS (LINE、twitter等)	35
友人・知人の紹介	137
生涯学習情報コーナー (まちづくり推進員)	68
その他	62
得る手段がわからない	13



市報が最も多く、次いで、友人・知人の紹介や市ホームページが多い。

問4 あなたは今後、どのような生涯学習をしてみたいですか。(複数回答可)

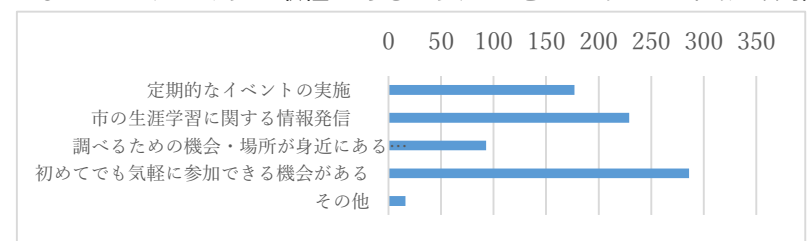
	計(単位:人)
市や関連団体のイベント・講座	186
市民団体のイベント・講座	123
サークル活動	166
ボランティア活動	124
近隣大学の公開講座	190
調布市文化・コミュニティ振興財団の講座	167
その他	16
わからない・興味がない	18



近隣大学の公開講座が多く、次いで市や関連団体のイベント・講座が多い。

問5 これから生涯学習を始めるために、どのようなきっかけづくりの取組があると良いと思いますか。(複数回答可)

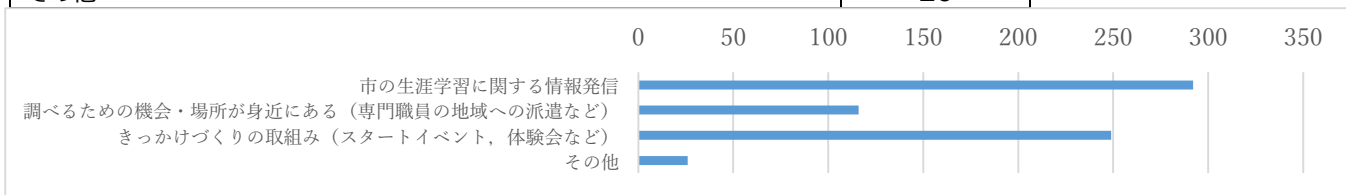
	計(単位:人)
定期的なイベントの実施	177
市の生涯学習に関する情報発信	229
調べるための機会・場소가身近にある (専門職員が地域への派遣など)	93
初めてでも気軽に参加できる機会がある	286
その他	16



初めてでも参加可能な機会の場合や、市の生涯学習に関する情報発信が求められている。

問6 市民の生涯学習がさらに充実するために、調布市が今後、最も重点的に取り組むべきことは何だと考えますか。(複数回答可)

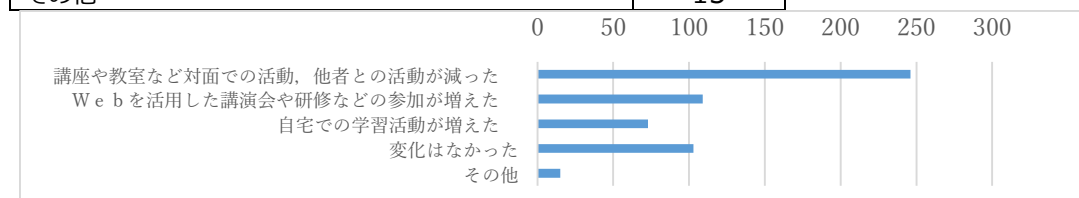
	計(単位:人)
市の生涯学習に関する情報発信	292
調べるための機会・場所が身近にある(専門職員の地域への派遣など)	116
きっかけづくりの取組み(スタートイベント、体験会など)	249
その他	26



市には、生涯学習に関する情報発信とともに、きっかけづくりを求める回答が多い。

問7 新型コロナウイルス感染症拡大の前後で、あなたの生涯学習に変化はありましたか。(複数回答可)

	計(単位:人)
講座や教室など対面での活動、他者との活動が減った	246
We bを活用した講演会や研修などの参加が増えた	109
自宅での学習活動が増えた	73
変化はなかった	103
その他	15



対面や団体・グループでの活動が減ったという回答が最も多く、次にウェブでのイベントへの参加が多い。

■ ヒアリング等実施概要

分類	団体名
社会教育	社会教育委員
障害者団体	NPO法人 調布心身障害児・者親の会
外国人	調布市国際交流協会
サークル活動団体	調布わいわいサロン
協定大学	国立大学法人 電気通信大学

(主な内容)

- ・多文化共生の推進に向け、障害者や外国人の方への理解を促進し、当事者のためのプログラムを検討いただきたい。
- ・社会教育と生涯学習の分野は重なる部分が多く、根拠となる法令に基づき、他自治体の状況を参考に取り組むとよい。
- ・18歳までは、学齢期として特別支援学級や放課後等デイサービスなどで学ぶことができるが、卒業後は、就労や作業所での通所になると学習の機会が減り、そういった学びの機会がないと、家にこもりがちとなり、精神的・身体的(肥満など)に影響が出てくる。
- ・当事者だけでは、活動に制限があることも多く、対応することができる指導者が限定されたり、家族の付き添いが必要となる場合がある。ヘルパーの活用なども選択肢としてあるが、同世代で共通の趣味を持つ仲間がいると活動が充実することにつながる。
- ・情報収集には、SNSを活用することがほとんどであり、SNS等を活用した情報発信が効果的である。
- ・障害のある方が体を動かして楽しめる「ほりでーぶらん」やFC東京と連携するあおぞらサッカースクールは、指導者が慣れており、人気の高い取組であることから、継続して参加することが難しい。
- ・水泳教室は、適度に身体運動ができる良い機会であるが、継続して参加するためには費用面が課題となっている。
- ・学生はサークル等に所属できるが、社会人は学習のための情報を得る機会や地域とつながる機会が希薄になる。
- ・特に、防災対策では、平時から地域と繋がりがあることによって共助につながるが、地域活動に参加している外国人は少なく、防災訓練等に参加する機会を設ける必要がある。
- ・「自ら何かに取り組みたい人」、「何に取り組んで良いかわからない人」、「何もしたくない人」に分類される。
- ・きっかけづくりとして、様々な情報提供媒体を世代のニーズに応じて対応する必要である。
- ・地域に開かれた研究機関として、公開講座やプログラムを通じて地域との関わる機会が口コミで広がることが大事である。

(2) 諮問書



4 調生文発第2570001号

令和4年12月13日

調布市生涯学習推進協議会
会長 菅原 育子 様

調布市長 長 友 貴 樹

調布市における生涯学習の振興に向けた基本方針について（諮問）

調布市生涯学習推進協議会条例（平成2年調布市条例第4号）第2条の規定により、
下記のとおり諮問します。

記

1 諮問事項

調布市における生涯学習の振興に向けた基本方針について

2 諮問理由

市は、生涯学習振興施策について、調布市基本計画の施策の一つに「生涯学習のまちづくり」を位置付けるとともに、個別計画である調布市生涯学習振興プランに基づき、生涯学習の推進に取り組んで参りました。

令和4年度は、調布市基本計画及び調布市生涯学習振興プランが最終年次を迎えることから、次期基本計画の策定に向けた取組と連動し、生涯学習を取り巻く社会潮流や国・東京都の動向などを踏まえ、調布市における生涯学習の振興に向けた基本方針について諮問するものであります。

(3) 調布市生涯学習推進協議会の答申・提言経過

期別	任期	答 申 ・ 提 言 等
第1期	H3/1/29 ～ H5/5/31	(答申) 調布市における生涯学習の推進を図るための基本的な方策について (平成5年1月)
第2期	H5/6/1 ～ H7/5/31	計画策定への検討協議
第3期	H7/6/1 ～ H9/5/31	『生涯学習推進計画 (平成9年3月)』
第4期	H9/6/1 ～ H11/5/31	計画の推進等の進行管理
第5期	H11/6/1 ～ H13/5/31	(提言) 生涯学習・まちづくり・ボランティアを支援する総合センターの設置 (平成13年3月)
第6期	H13/9/1 ～ H15/8/31	『文化・生涯学習によるまちづくり推進計画 (平成15年3月)』
第7期	H15/11/1 ～ H17/8/31	(答申) 生涯学習によるまちづくりの拠点としての公共施設の在り方について (平成17年8月)
第8期	H18/3/1 ～ H20/2/29	(提言) 生涯学習によるまちづくりにおける団塊の世代の地域での活動推進施策に関する提言 (平成19年10月)
第9期	H20/7/24 ～ H22/7/23	(提言) 生涯学習の成果をまちづくりに活かすための方策に関する提言 (平成21年11月)
第10期	H22/10/1 ～ H24/9/30	(答申) 調布市における生涯学習振興の基本的な方策について
第11期	H24/10/1 ～ H26/9/30	『調布市生涯学習振興プラン～一人ひとりの学びでつながるぬくもりあるまちを目指して～ (平成25年3月)』 (提言) 「調布市生涯学習振興プラン」推進のための方策について
第12期	H27/7/1 ～ H29/6/30	(報告) 調布市生涯学習振興プランに基づく各種取組の新たな展開のために～プラン策定から3年間の振り返り～
第13期	R4/12/13 ～ R6/11/30	(答申) 調布市における生涯学習の振興に向けた基本的な考えについて (令和5年2月)

